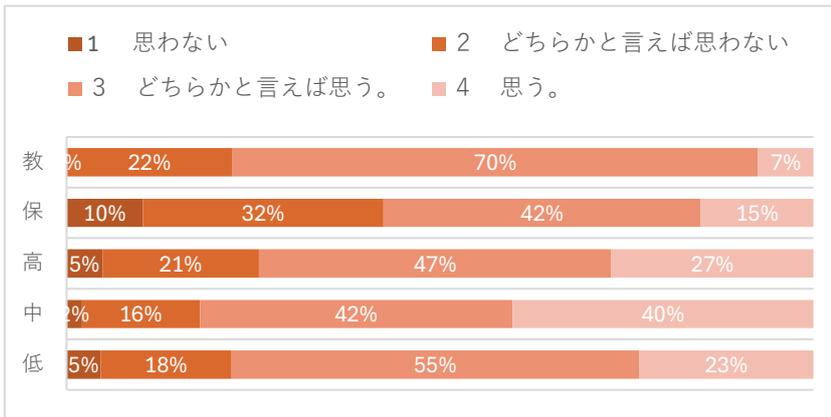


令和7年度 学校評価アンケート

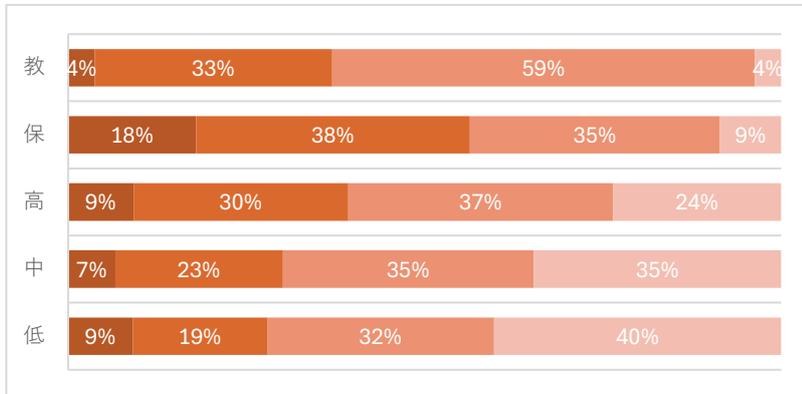
令和7年度 学校評価アンケートにご協力をいただきありがとうございました。アンケートの結果については、来年度の教育計画の参考にさせていただきます。

Q1.お子さんは自分から進んで学習をすることができる。



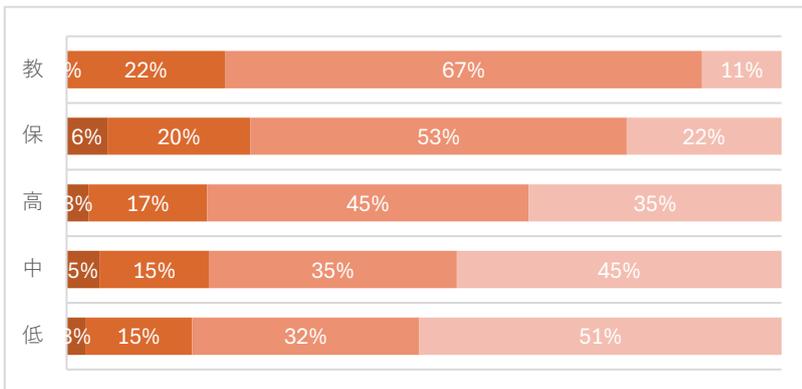
進んで学習することについて、7割から8割程度の児童からできていると回答があった。若干、保護者との開きが見られる回答であった。進んで学習に取り組める児童の育成に今後も取り組んでいきたい。

Q2.お子さんは家庭で学習を進める際に計画を立てて行うことができる。



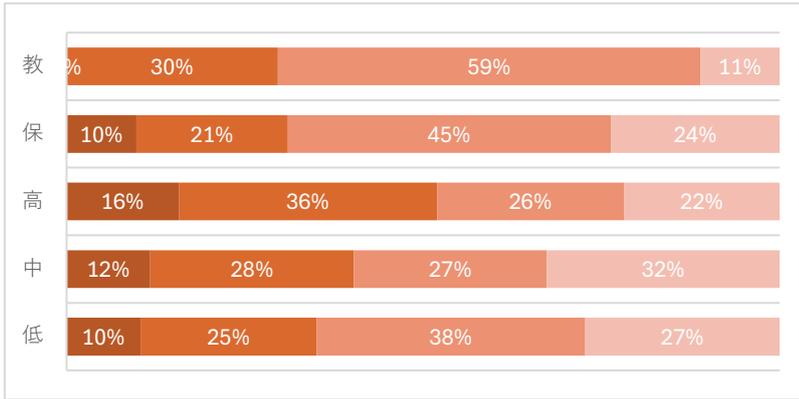
低学年の数値が昨年度約65%と比べると72%と7%数値が高くなっている。また教職員では昨年度48%から63%となっている。保護者や中学年、高学年は横ばいから若干下がっている。中高学年でも、計画的に学習を進めるための手立てを考えていきたい。

Q3.お子さんは前に学習したことを次の学習に生かして問題を解くことができる。



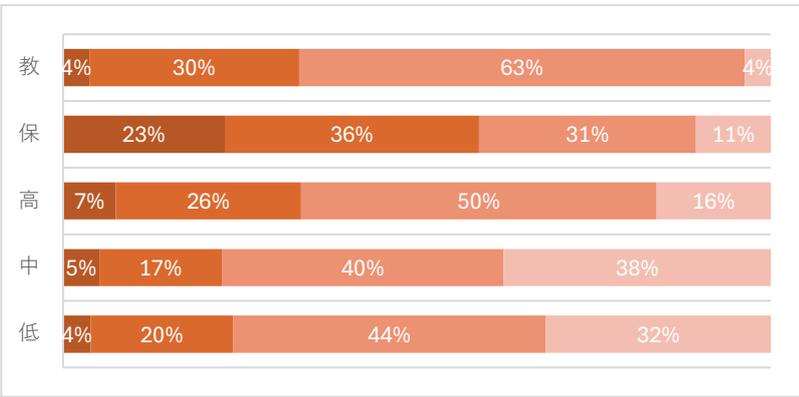
中学年では昨年と比べて数値を落としてはいるが、他は昨年度と同じくらいの割合の回答であった。小学校の学習内容は、次の時間や進級した先で生かせるだけでなく、最終的に自分の生活に生きるものである。児童には有用性を伝えながら学習の目的や意欲を持たせられるようにしていきたい。

Q4.お子さんは学習し答えに辿り着いた道筋を家の人にお話しすることができる。



学年が上がるにつれて数値が下がる傾向がみられた。話をするということは、頭の中で論理的に思考を組み立てるという事とも関係が深く、今後の児童の生活にも非常に重要な力となるものであることから、成長を促していきたい。

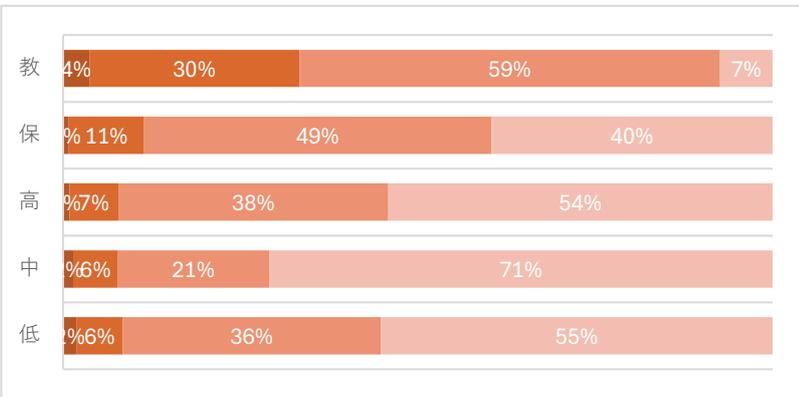
Q5.お子さんは感想文や作文を分かりやすく書き表すことができる。



保護者と児童の数値に開きがみられた。

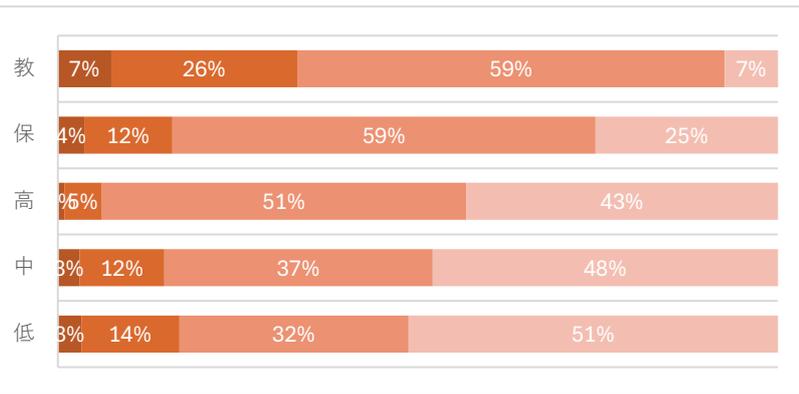
読み聞かせや読書活動を通し、様々な筆者や作者の表現や文章の論理的な構成等、児童の中に将来の表現の財産となるものを増やしていきたい。

Q6.お子さんは相手の立場になって考えることができる。



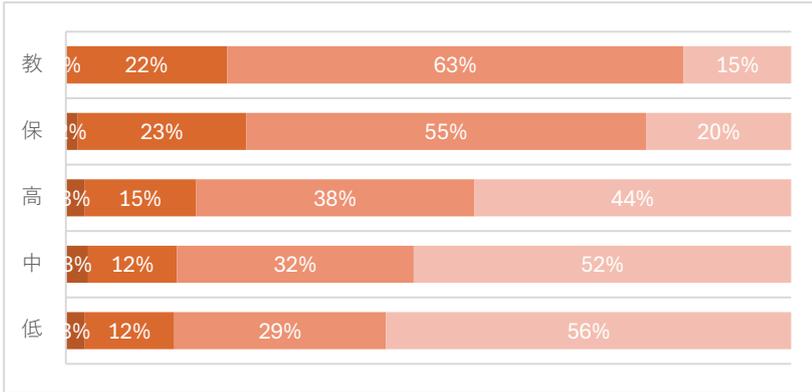
児童の90%以上が相手の立場になって考えることができると回答している。ただ、教職員としては目指す姿へ向けてあと一押し支援が必要と考える。道徳や学級活動等を通して、今後も児童の心の成長を支えていきたい。

Q7.お子さんは挨拶や返事等の礼儀が身についている。



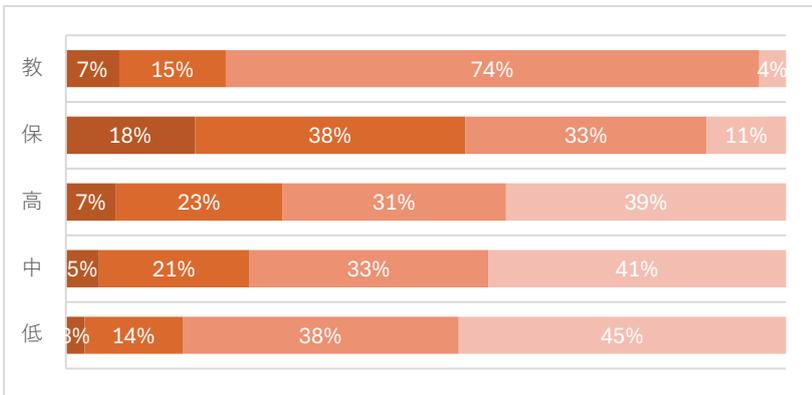
気持ちの良い挨拶ができる児童が増えてきている。今後も挨拶の大切さを伝えていきたい。また、大切なことの一つに、先に挨拶ができることもあると思うので、そうしたところも引き続き伝えていきたい。

Q8.お子さんは決めたことを最後まで諦めずに取り組むことができる。



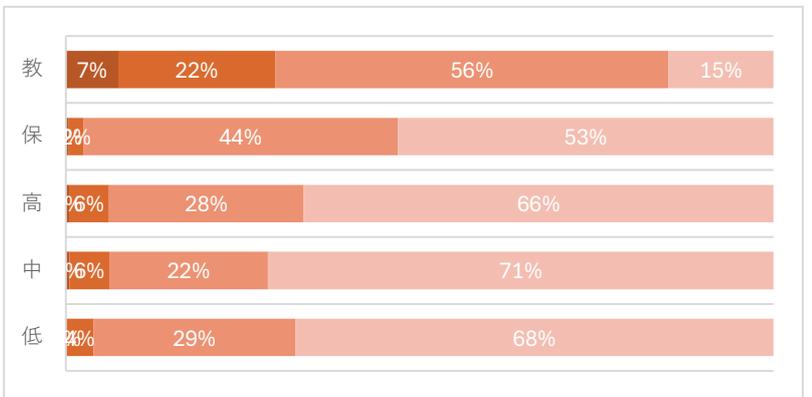
昨年度と比べて保護者の数値が上昇をしている。児童の頑張りを認める環境があることは、児童の向上心や粘り強く取り組む心を育む土壌になると考えられる。

Q9.お子さんは身の回りの整理・整頓をすることができる。



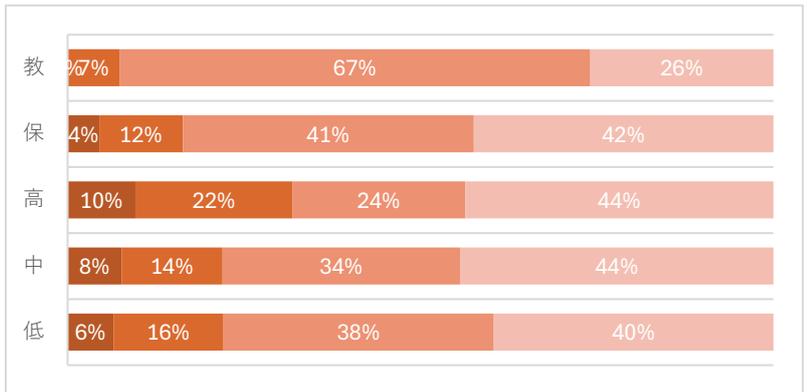
身の回りの整理整頓や規則正しい生活が学力と関係することは近年様々なところで言われている。本校では、高学年になるにつれて少しずつ数値が下がっているが、自分を分析できる成長過程になってきているとも考えられる。自覚できたからこそ次の取り組みをどうするか考えさせていきたい。

Q10.お子さんは交通ルールなどの約束を守って生活することができる。



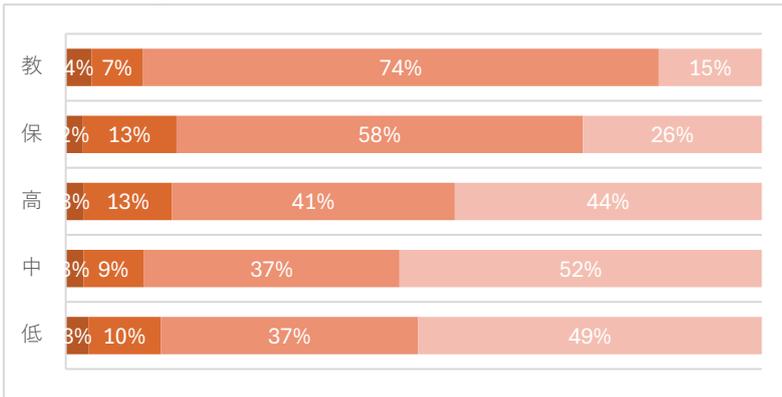
高い水準で肯定的な数値となったが、地域から飛び出しや自宅前の道でのボール遊びなどについて電話を受けることもある。生命にもかかわるルールについては、これからも学校と家庭で協力をして定着させたい。

Q11.お子さんは帰ってきてから、学校の様子を話してくれる。



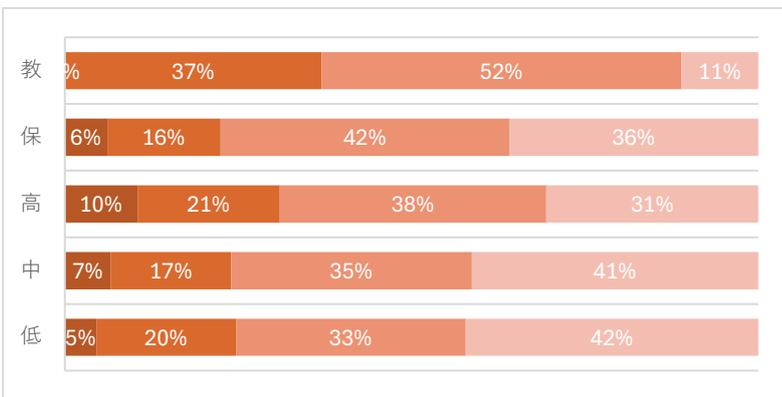
低学年と中学年、保護者の中で昨年度よりも数値が上がっている。学校の話を通して、親子のコミュニケーションの時間が生まれていることが想像できる。学校でも、家族で出かけた話やペットの話等をしてくれる子も多い。

Q12.お子さんは家庭で約束したことを守ることができる。



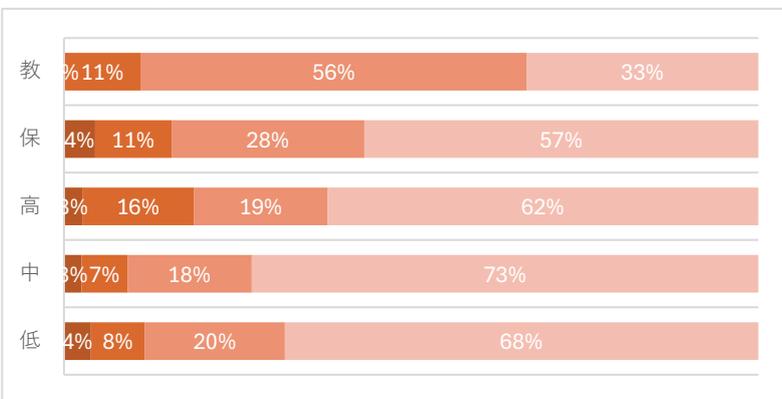
家庭での約束事を守ることは、社会で生きるための規範意識の根幹となる。約束を守るという意識を更に成長させていただけたらありがたいと感じる。また、学校では学校の約束を守ることの大切さを伝え、場所ごとに守らなくてはならない約束があることを学年に応じて伝えていきたい。

Q13.お子さんはお休みの日でも規則正しい生活を送ることができる。



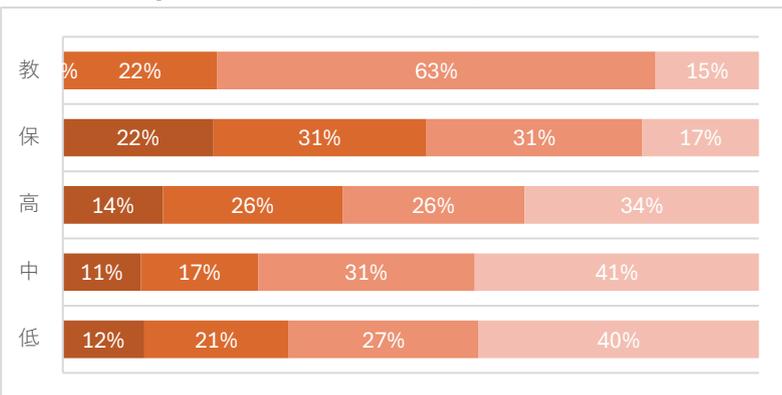
規則正しい生活は児童の健全な心身の成長へとつながっている。保健体育科や家庭科での学習や啓発は勿論だが、行事やその他の時間でも積極的な働きかけを引き続き行っていきたい。

Q14.お子さんは体を動かして遊んだり、体験をしたりすることが好きだ。



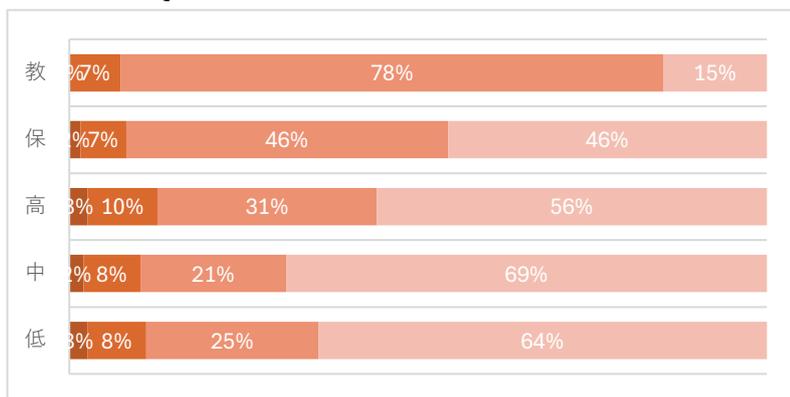
児童は体を動かすことが好きである。しかし近年体育などの授業では見学をする児童も増えている。また、体力テスト等から持久力が落ちている実態も伺える。休み時間などを利用し、自分にあった運動に出会う機会を増やし、児童の体力向上に努めていきたい。

Q15.お子さんは学校や習い事の課題以外に、自分で学習をする時間を作っている。



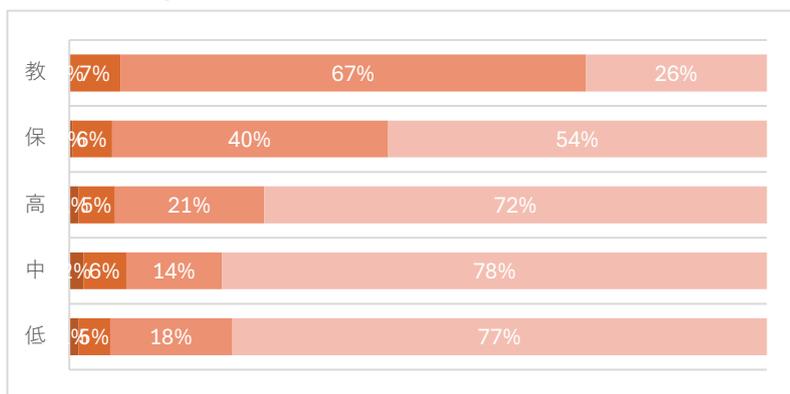
児童と保護者間で数値に開きがあるが、視点を変えれば半数以上の児童が自主学習を行うことができているということになる。今後は、この割合をさらに伸ばしていけるように、児童への働きかけの工夫等をしていきたい。

Q16.お子さんの担任は相談しやすく、また助力や解決をしてくれる。



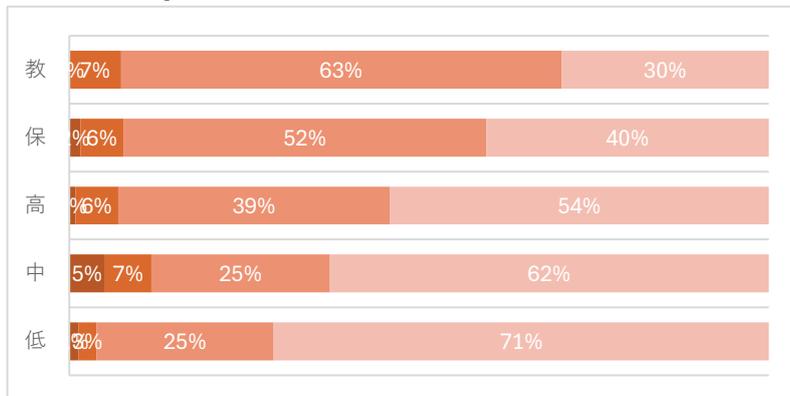
児童が課題や悩みを持った時に頼られる教職員として引き続き努力をしていきたい。また、今後はさらに保護者の方にも相談されやすい環境と人間性を備えた教育職員を目指して研鑽を積んでいきたい。

Q17.お子さんの担任はいつも楽しいクラスになるように努力をしていると感じる。



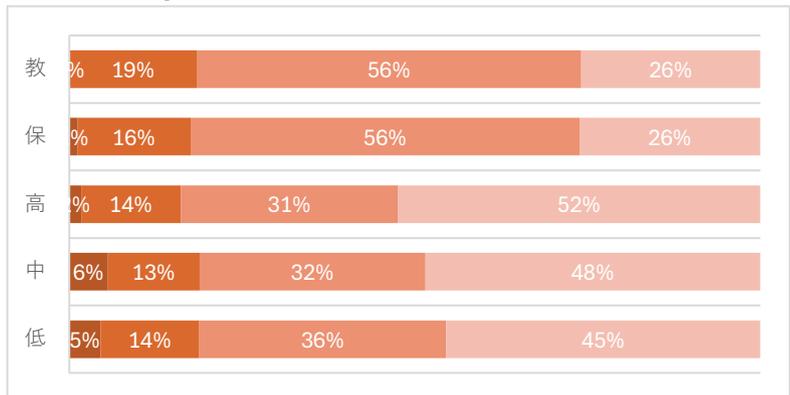
児童たちの90%以上がそれぞれの担任に対して好感を持ってあげることがわかる。今後はこの数値をできるだけ100%に近づけられるよう一人一人の児童の思いに寄り添えるよう努力を重ねていきたい。

Q18.お子さんの担任は授業が分かりやすく楽しそうである。



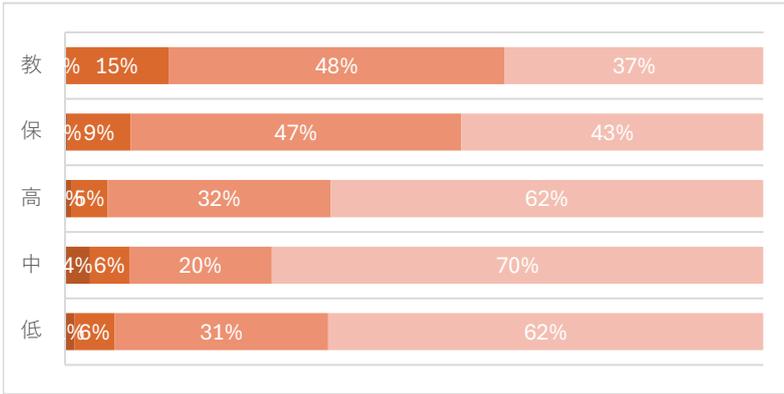
高学年が昨年度85%から93%、低学年が88%から96%と数値が上がっている。今後も意欲・学力の向上を目指し、よりよい授業づくりに向けて研鑽を積んでいきたい。

Q19.お子さんの担任は休み時間に一緒に遊んだり話を聞いてくれたりするようだ。



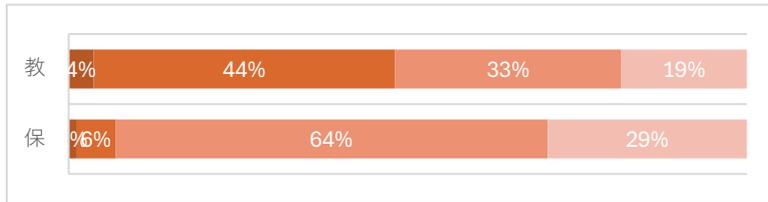
大人と児童で好感的な回答の割合80%以上となっている。多くの児童が担任と触れ合う時間を有している一方で今後20%の児童とも休み時間に触れ合えるようにしていきたい。その中で、児童理解をさらに深めていけるようにしたい。

Q 2 0 .お子さんは担任の話を理解している。



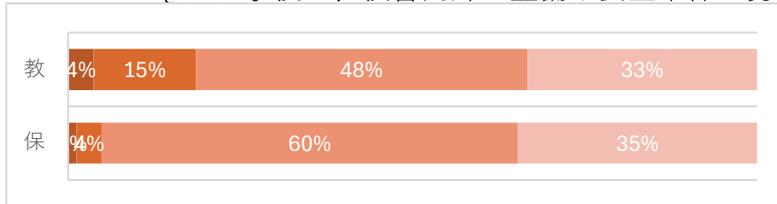
昨年度と大きく変化はなかった。今後も指導内容が伝わるようにわかりやすい言葉を選ぶとともに、イラストやジェスチャーを交えるなどの工夫をして学力向上を目指し、より研鑽を積んでいきたい。

Q 2 1 .学校は、学習するための用具や施設などが充実している。



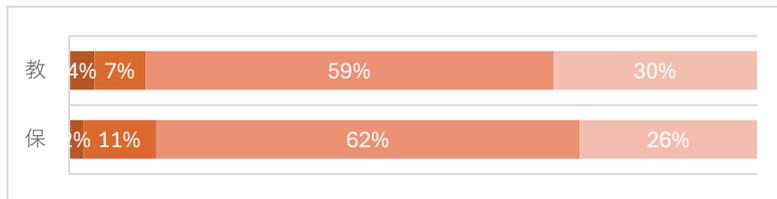
保護者の数値は昨年度と変わっていない。だが、教職員は数値を下げている。古くなった教具やICT機器の充実など学校予算を計画的に運用していきたい。

Q 2 2 .学校は、校舎内外の整備や安全確保に努めている。



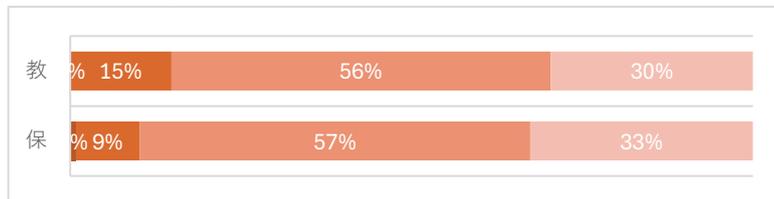
昨年に比べ教職員の肯定的な意見の数値が下がった。計画的な修繕などを更に行い、児童が安全で安心した生活ができる環境を整備したい。保護者の方は昨年度と同様であった。

Q 2 3 .学校は、相談しやすい雰囲気がある。



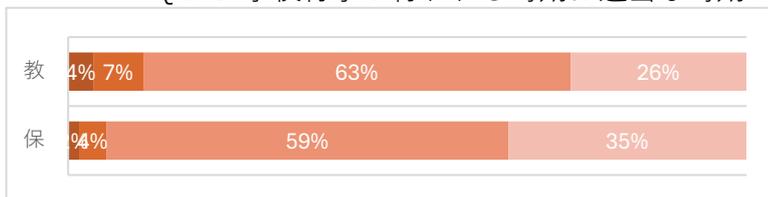
昨年度と概ね同様の数値であった。今後も相談しやすい学校作りに取り組んでいきたい。そのためには平素より保護者の方とコミュニケーションをとっていくことが大切だと考える。

Q 2 4 .学校からのお便りや連絡、緊急連絡メールなどは分かりやすい。



教職員や保護者とも8割以上が肯定的な回答であった。今後も分かりやすく適切な時期に各学年だよりや行事のお知らせを届けたい。

Q 2 5 .学校行事が行われる時期は適当な時期に設定されている。



保護者は昨年度と比べ数値が上がっているが、教職員は若干数値が下がっている。猛暑など、今後の気候変動なども視野に入れ計画的に行事を行っていきたい。